プロダクトデザイナー

秋田道夫seminar：のこるデザイン×きえるデザイン

■ Profile

1953年生まれ．大阪府吹田市出身

愛知県立芸術大学美術学部デザイン科を卒業後、ケンウッドに入社

その後、ソニーを経て1988年に独立

グッドデザイン賞など受賞多数

公式サイト

http://www.michioakita.jp

■ 日時

2006年5月20日（土）

午後2時30分〜4時30分

■ 会場

中央電気倶楽部207号室

■ 主催

大オオサカまち基盤

http://www.michioakita.jp

info@o-ban.net

■ 協力

高島屋

□ 会場に展示している秋田氏のプロダクトは、大阪高島屋6階 生活雑貨ショップ「マ ピエス」にて取り扱っております。

（問い合わせ：06-6631-1101）

■ 中央電気倶楽部について

堂島川に架かる渡辺橋の近く、堂島の一角に褐色のスクラッチタイルが張られたレトロなビルが建っています。中央電気倶楽部の会館です。中央電気倶楽部は、大正2年（1913）に関西における電気事業関係者の親睦を図る目的で設立された団体で、当初は中央電気協会と称しましたが、後に現在の名前に改められました。

会館は当初、大正3年に建設されましたが、これは竣工まもなく原因不明の火災によって全焼してしまい、二代目の建物は同5年11月に再建されました。このとき施工にあたったのは清水組で、設計は野口孫市だったと伝えます。ところが、この建物もすぐに利用者の増加によって手狭になったため、昭和2年には新館建設が決議され、東隣の土地117坪を買い足して敷地が354坪に拡張されました。そして建物は葛野建築事務所（葛野壮一郎）の設計、大林組の施工によって同4年6月に着工され、翌年10月に竣工しました。現在はこのときのものが残っています。なお葛野壮一郎は明治38年（1905）に東京帝国大学を卒業し、横河工務所、大阪府技師を経て独立し、大正から昭和初期にかけて大阪で活躍した建築家で、大江ビルディングの設計者としても知られています。

建物は、鉄骨鉄筋コンクリート造の地下1階地上4階建で、外観は当時流行していたスペイン風の意匠でまとめられています。また内部は、正面玄関を入ると広いホールになっており、その奥には談話室と囲碁室、さらに奥にはビリヤード台が置かれた球戯室が配されています。つぎに2階は正面中央に迎賓室と横に和室の日本室が並び、奥は広い談話室で一隅にはバーも設けられています。そして3階には大食堂、4階には舞台付きの大講堂が作られています。

ところで、設計者の葛野壮一郎はこの会館が竣工した昭和5年に、クラブ建築というのは「客室と食堂の延長」のもの、つまり「純粋な社交機関」であり、したがって談話室・図書室・食堂・特別室（和室）・娯楽室・酒場・大会堂などの諸室が必要である、と述べています（『建築と社会』昭和5年11月号）。中央電気倶楽部の会館は、葛野が描いたクラブ建築そのものだったことがわかります。大阪倶楽部（大正13年、安井武雄）、綿業会館（昭和6年、渡辺節）と並び、大阪を代表するクラブ建築の一つといえるでしょう。

（住まいのミュージアム学芸員 新谷昭夫／大阪市北区ホームページより）

プロダクトデザイナー

秋田道夫seminar：懇親会のご案内

■ **懇親会**

午後5時〜

■ **会場**

大阪名品喫茶 大大阪

大阪市北区中之島3-6-32ダイビル本館1F

TEL:06-6444-8870

http://www.michioakita.jp

（中央電気倶楽部より徒歩5分程度）

■ **参加費**

1500円

（懇親会会場にてお支払いください）

□ 参加予約をされていない方で、懇親会参加ご希望の方がいらっしゃいましたら、スタッフまでお声をおかけください。

025

秋田道夫

ものをつくるすべてのプロセスを熟知しているからこそ、デザインに対する厳しい信念を貫く

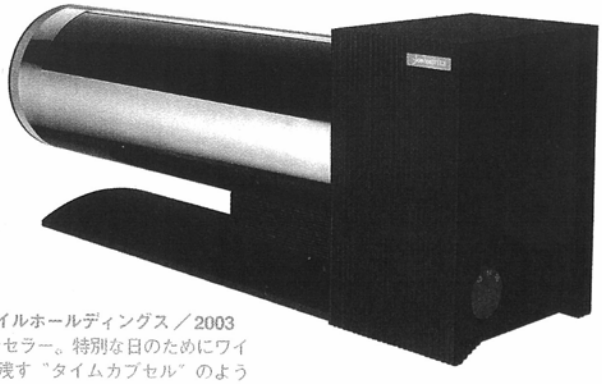
PRODUCT MICHIO AKITA

僕がプロダクトを世に送り出すとき、いつも「秋田道夫さんは、これを見たらどうおっしゃるのだろう」と緊張する。「デザインとは、未来の目標を見せる力をもっているべきもの」——それが秋田さんの貫く信念だからだ。

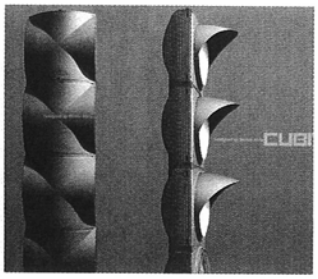
トリオ(現ケンウッド)、ソニーと企業のデザイン部に所属し、1988年に独立。企業時代のデザインにも、信念を地でいくエッジの効いたものが多かったが、独立後もそれは変わらない。近作では、デバイスタイルのコーヒーメーカーや1本用のワインセラーなどのヒット商品を生み出している。六本木ヒルズに設置されているセキュリティーゲートも彼のもの。素材の選択、デザイン、使い勝手、そしてたたずまいの美しさ。妥協を許さない高い目標を自ら掲げ、それをクリアするプロダクトをつくり出せるデザイナーなのだ。デザインに対する厳しい姿勢を貫く秋田さんのことばなら真摯に受け止められる。ぜひ、仕事をご一緒できる機会があればと思う。(西山)

CA-3S ／デバイスタイルホールディングス／2004
同じ形の円錐を組み合わせて動きを表現したサーモマグコーヒーメーカー。テーブル上で、朝から"おごそかな"気分を演出してくれる。詳細は、www.devicestyle.co.jp/

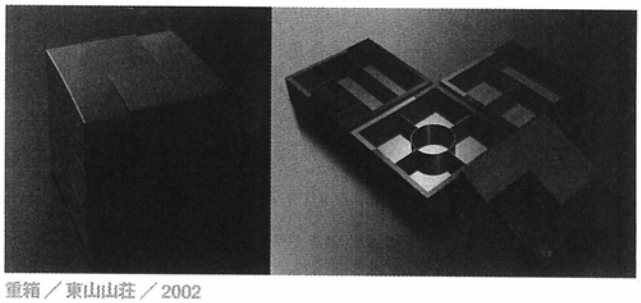
WA-12 ／デバイスタイルホールディングス／2003
昔オーディオに傾倒した人たちが、いまはワインを楽しんでいるのではないかという思いから"味覚のオーディオデザイン"と名づけてデザインされた12本用のワインセラー。



WA-1 ／デバイスタイルホールディングス／2003
世界初の1本用ワインセラー。特別な日のためにワインを封入して未来に残す"タイムカプセル"のような思いが込められている。



LED式信号機 ／信号電材／2004
街の信号機は、「ランプ式」のものから耐久性と省電力性に優れた「LED式」に変わりつつある。秋田氏は、「街のどこにでもある信号を美しくする仕事は意義とやりがいがある」という。



重箱 ／東山山荘／2002
京都にある料亭のおせち専用にデザインした三段重箱。ふたにつけた段差があたかも赤と黒のふたつのブロックからできているような錯覚を誘う。東山山荘は、www.sanyo-kogyo.co.jp/villa/

あきた・みちお
1953年大阪生まれ。77年愛知県立芸術大学美術学部デザイン科卒業後、ケンウッド、ソニー勤務を経て、88年に独立。シンプルなデザインのなかに豊かさを含有した、「SIMPRICH（シンプリッチ）」をコンセプトに活躍。近作は、2005年ジョージアキャンペーンの5.1chDVDサラウンドシステム、キヤノン大型プリンターW8400（社内との共同デザイン）など。毎日ID賞特選一席、グッドデザイン賞など受賞多数。

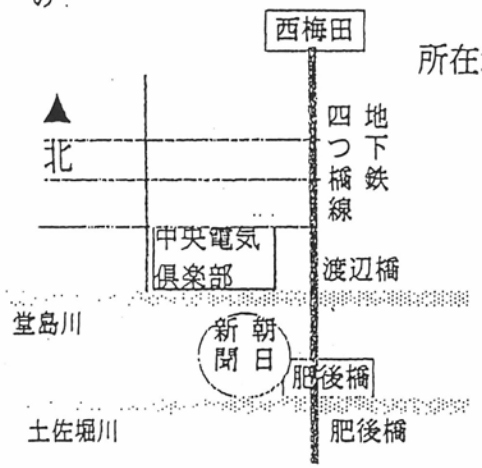
中央電気倶楽部のロゴマーク

中央電気倶楽部

見学箇所：中央電気倶楽部
昭和5（1930）年　葛野建築事務所（葛野壮一郎）設計　鉄骨鉄筋コンクリート5階建
所在地：大阪市北区堂島浜2丁目1-25

外壁のテラコッタ装飾

15世紀イタリア



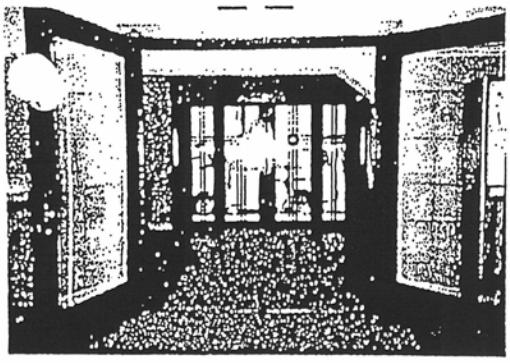
中央電気倶楽部について：

中央電気倶楽部は、明治43（1910）年に発足した日本電気協会関西支部が、大正2（1913）年、現在地に関係者の会合・親睦・娯楽のために建設した関西電気倶楽部（大正4年より社団法人・中央電気倶楽部）に由来します。電気関連業界の隆盛を背景に、昭和5（1930）年、同倶楽部第三代目の建築が竣工して現在にいたります。

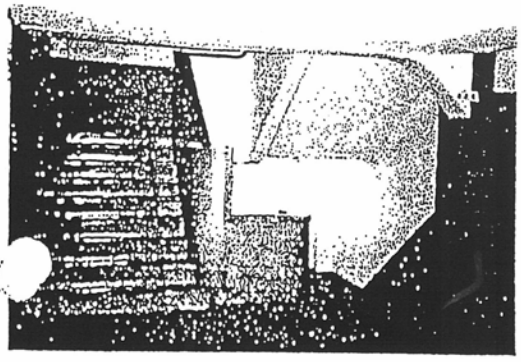
明治末期から大正期にかけての大阪は、キタの大火（明治42年）、市内中心部に市電が敷設されたこと、第一次世界大戦の好況をきっかけに、道路幅の拡張、都心部における不燃・高層ビル建築ラッシュをむかえます。大型のオフィスビルの需要と鉄筋コンクリートの建築技術、大阪に設計事務所をかまえ活躍し始めた日本人建築家第二世代との出会いが個性的な商都の都市景観を築いてゆきました。

中央電気倶楽部の設計者はそのような建築家のひとり・葛野（かどの）壮一郎（1882-1944）です。葛野は、明治38年に東京帝大を卒業し、神奈川県庁、横河工務所、大阪府庁勤務を経て大正8年に独立し、大江ビルディング（大正10年）をはじめとする大阪のオフィスビル設計に活躍しました。

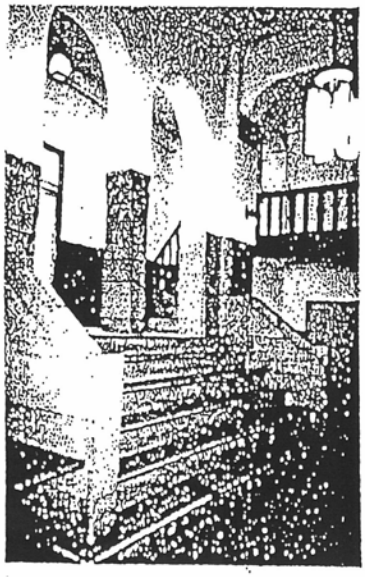
安井武雄の大阪倶楽部（大正13年）、渡辺節の綿業会館（昭和6年）とならぶ大阪の倶楽部建築の名作ですが、いずれもが外観はイタリア・ルネサンスのパラッツォ建築をベースにしていること、外壁を褐色系のスクラッチタイルで覆いテラコッタ装飾でアクセントをそえていることが共通します。内部は倶楽部建築の常で、一室ごとに異なった装飾様式でまとめています。葛野の持ち味は、安井の骨太な野趣、渡辺の繊細華麗とも区別される幾何学的な空間処理にあります。トラバーチンの渋い褐色、焦げ茶の木材、白い漆喰を基調に、直線と曲線で巧みに空間を処理した都会的なセンスが光る名建築であるといえましょう。

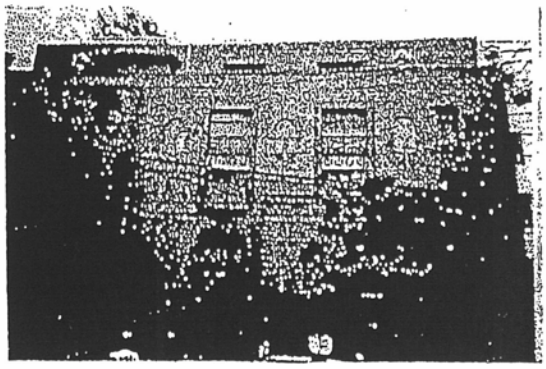


↑正面玄関内部　↓階段



↓4階廊下部分



↓　図書室

↓　正面外観